



# のらねこ プロジェクトレポート 環境教育プログラム

R7

30 APRIL, 2025

PROJECT

## 種子島出身の大学生×島内の高校生

2024年度、LUSHチャリティバンク助成金を活用し、環境教育プログラムを開発しました。本プログラムには、のらねこから大学生18名と種子島高校の有志6名、計24名が参加。種子島のビーチ「美浜」をフィールドに、環境保全への理解を深めました。通常はオンラインで活動し、長期休暇には種子島出身の大学生が帰省。現地でビーチクリーンや漂着ごみ調査などのフィールドワークを実施しました。ワークショップでは、具体的な海洋環境保全のアイデアを発案しながら、種子島の若者同士が学び合う関係性を築くことができました。



PICKUP

### 美浜を舞台に！ 学年を超えて学びあう！

2025年3月2日には、西之表市民会館にてワークショップ、美浜海岸にてビーチクリーン、漂着ごみ調査を実施しました！当日は16名がワークショップに参加したほか、研究で来島中の鹿児島大学の学生なども見学に訪れました。種子島の海の豊かさを考える場面では、学年や選考を超えて活発な意見交換が行われました！



#### 種子島出身 高校1年 福永 梨乃さん

種子島生まれの私は地元の良さを即答できませんでしたが、海浜活動への参加を通じて魅力を再発見しました。島外の大学生と意見交換を重ねる中で学びを深め、さらに地域の魅力や人々の営みに触れたいと感じingようになりました。



#### 種子島出身 大学2年 松田 明日羽 さん

実際にゴミ拾いを行い、海洋ゴミの現状を肌で感じることができました。それまで主に情報をインプットすることが多かったですですが、このような活動を通じて実践することで、環境への意識がさらに高まったと実感しました。



ANALYSIS

### 参加者へのアンケート結果

本環境教育プログラムの参加者の87%が「環境への関心が高まった」と回答し、13%も「そう思う」と評価しました。また、今後のプログラム参加意向については、80%が「とてもそう思う」、13%が「そう思う」と回答し、全体として高い関心が示されました。(n=16)

Qプログラムを通して環境への関心が高まったと感じますか？

そう思う  
13%



87%

環境への関心がとても高まったと回答！

SUMMARY

### 環境課題という人類共通のテーマを中心に据えて

のらねこでは、発足以来コミュニティ形成の場として「海」を大切にしてきました。その目的は、たとえ今後島内の人口が減少しても、島に向けた「知」を維持し、発生する課題に対応できる基盤を築くことがあります。今回のプログラムでは、その重要性を改めて認識するとともに、環境課題への関心を高める場を創出しました。今後も「環境」を軸に据え、持続可能な活動を展開していきます。